

FY17 第2四半期  
決算説明会資料

2017年12月8日  
東京特殊電線株式会社

## 目次

1. 決算概要	.....	P.02
2. 配当金・業績予想	.....	P.06
3. 参考資料	.....	P.08

## 01. 損益計算書

(百万円・%)	FY16 2Q	FY17 2Q			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
売上高	7,635	9,058	+1,423	+18.6	
売上原価	5,517	6,559	+1,042	+18.9	
売上総利益	2,117	2,498	+381	+18.0	
販売費及び一般管理費	1,086	1,082	▲3	▲0.4	
営業利益	1,031	1,416	+385	+37.3	
経常利益	1,073	1,419	+346	+32.3	
税引前利益(※1)	762	1,348	+586	+76.9	特別利益 +314(1→314) 特別損失 ▲75(▲311→▲386)
当期純利益(※2)	743	1,033	+289	+38.9	法人税等調整額 ▲239 (296→56)

※1 税金等調整前四半期純利益 ※2 親会社株主に帰属する四半期純利益

## 02. 損益計算書(分野別売上高)

(百万円・%)	FY16 2Q	FY17 2Q		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	7,635	9,058	+1,423	+18.6
電線・ヒータ分野	5,149	5,766	+616	+12.0
デバイス分野	2,420	3,217	+797	+32.9
その他分野	66	76	+11	+16.2

- ・上記、売上高に含まれる為替換算による影響額 +188百万円  
(分野別：電線・ヒータ分野 +82百万円、デバイス分野 +106百万円)

## 概況

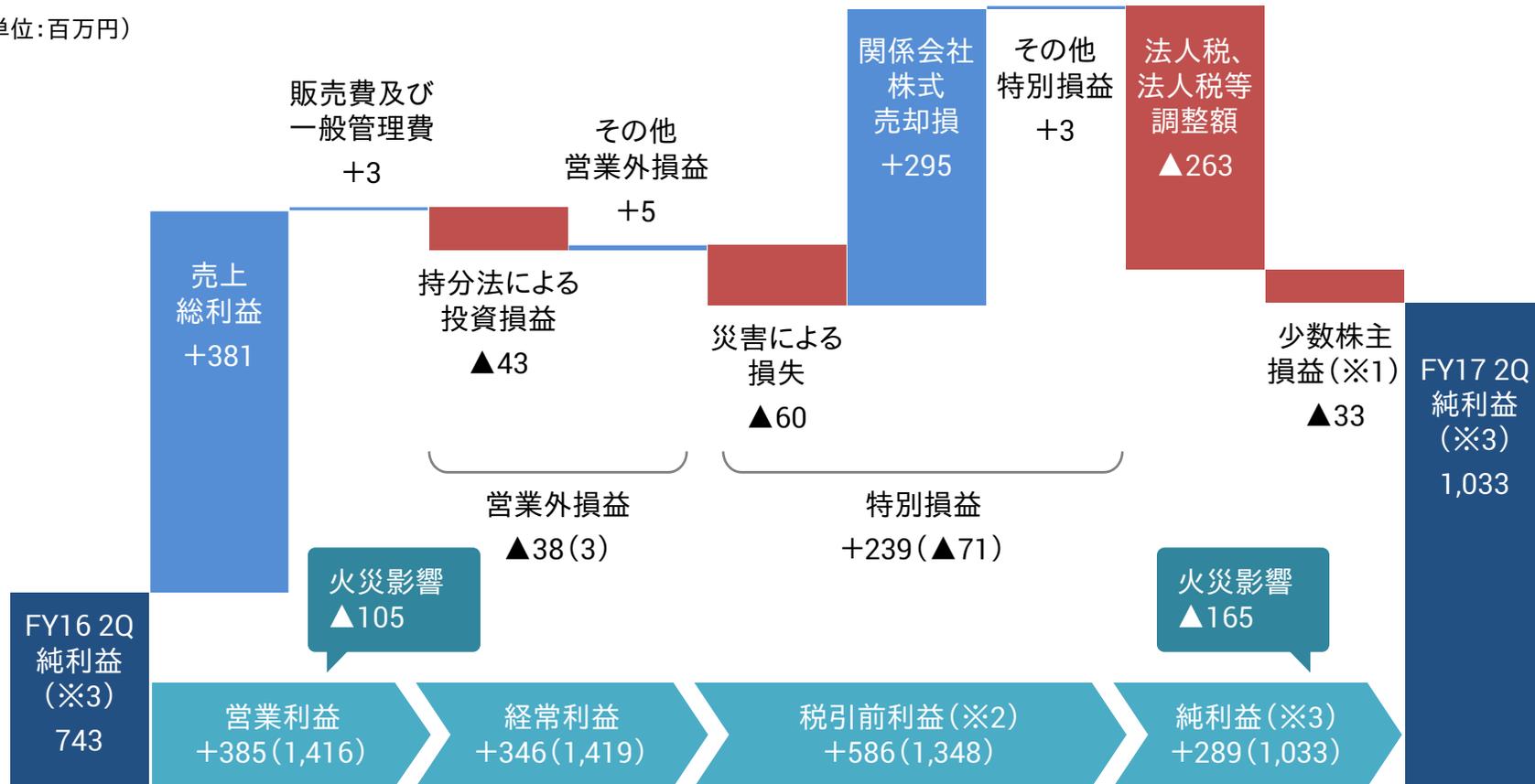
- ・売上高は9,058百万円となり、前年同期比 +1,423百万円、+18.6%の増収。
- ・電線、ヒータ分野は鉄道ケーブル、三層絶縁電線が堅調。メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となり、前年同期比 +12.0%の増収となった。
- ・デバイス分野は基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブ、スマートフォンカメラモジュールの手振れ補正用サスペンションワイヤが好調に推移。その結果、前年同期比 +32.9%の増収となった。

03. 親会社株主に帰属する四半期純利益変動要因（前年同期比）

概況

- ・ 災害による損失は、連結子会社（インドネシア）での火災の影響による。
- ・ 持分法による投資損益、関係会社株式売却損、法人税等調整額の減少については、前年度に実施した関連会社株式の売却による。

（単位：百万円）



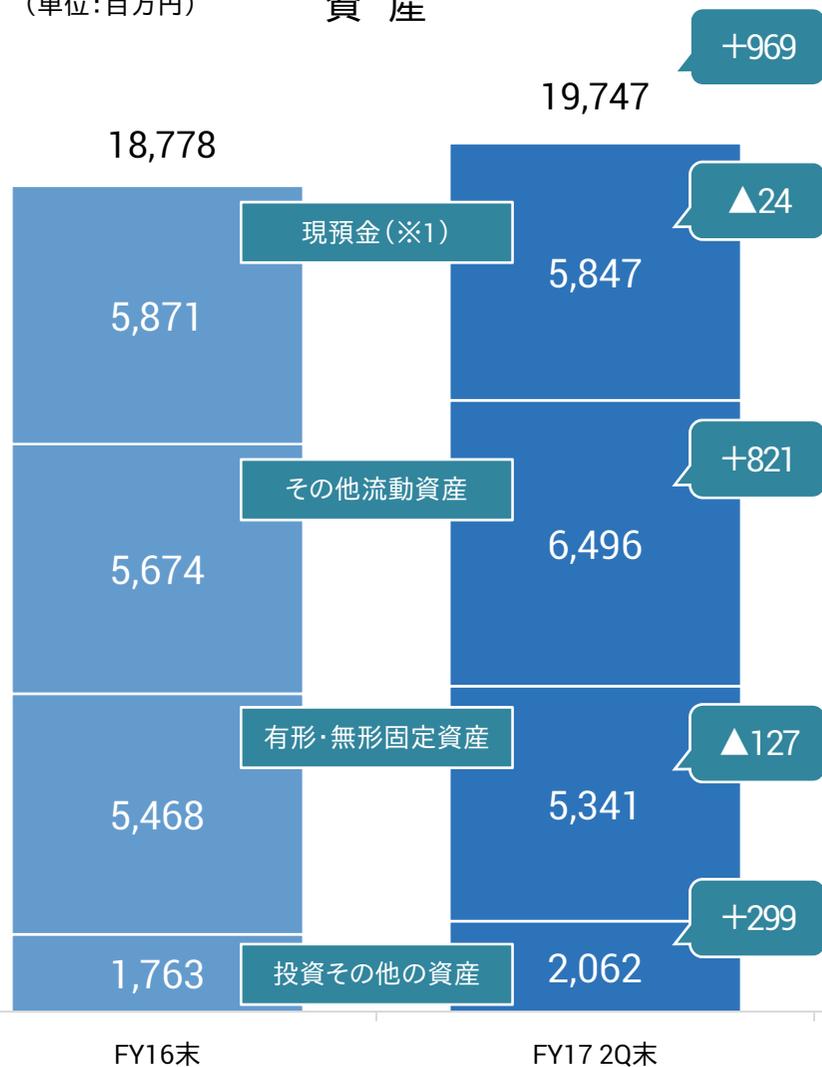
※ 括弧内は、FY17 2Q実績を表示

※1 非支配株主に帰属する四半期純利益 ※2 税金等調整前四半期純利益 ※3 親会社株主に帰属する四半期純利益

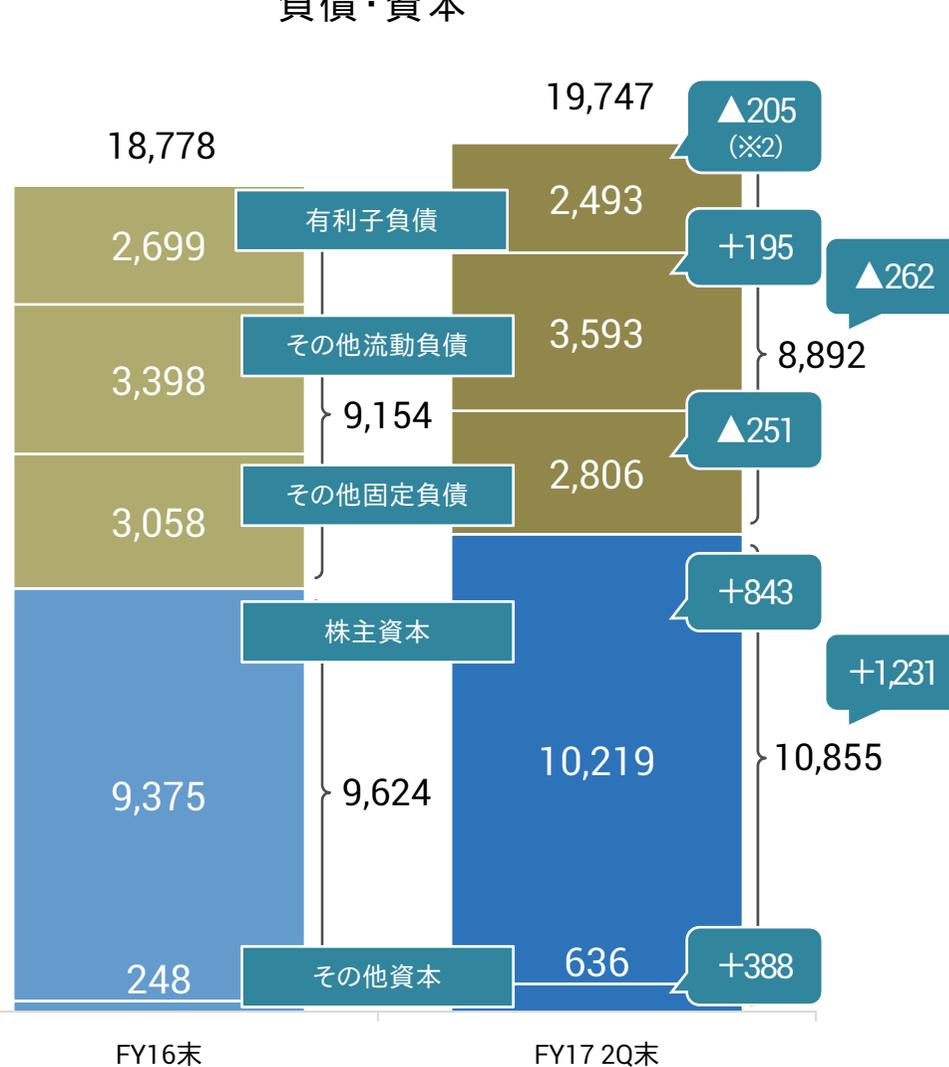
04. 貸借対照表

(単位:百万円)

資 産



負債・資本



※ 自己資本比率は前年度期末比+4.4ポイントの51.0%

※1 親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む ※2 Net有利子負債の増減は▲181百万円と改善

## 01. 配当金予想

(円、銭)	年間配当金			配当金総額 (百万円)	配当性向 (%)
	中間	期末	合計		
FY15	—	30.0	30.0	203	17.7
FY16	10.0	30.0	40.0	271	12.1
FY17	20.0	—	—	—	—
FY17(予想)	—	20.0	40.0	—	19.0

## 02. 業績予想

(百万円・%)	FY16	FY17		
	実績	今回予想	増減	増減率
売上高	16,273	18,000	+1,726	+10.6
営業利益	2,019	2,100	+80	+4.0
経常利益	2,089	2,090	+0	+0.0
当期純利益(※1)	2,252	1,430	▲822	▲36.5

※ 当期純利益(※1)が前年度(FY16)より減少している理由は、税効果会計の区分変更があり、前年度4Qに特別事項として、繰延税金資産を大きく積み増した事によります。

・ 上記、予想に含まれる連結子会社(インドネシア)火災による影響額は下記の通りとなります。

(百万円)	FY17 2Q 実績	下期見通し	FY17
営業利益	▲105	▲403	▲508
特別利益	314	—	314
保険金収入	314	—	314
特別損失	▲374	—	▲374
棚卸損失	▲157	—	▲157
固定資産損失	▲105	—	▲105
復旧に係る一時費用	▲111	—	▲111
当期純利益(※1)への影響額	▲165	▲403	▲568

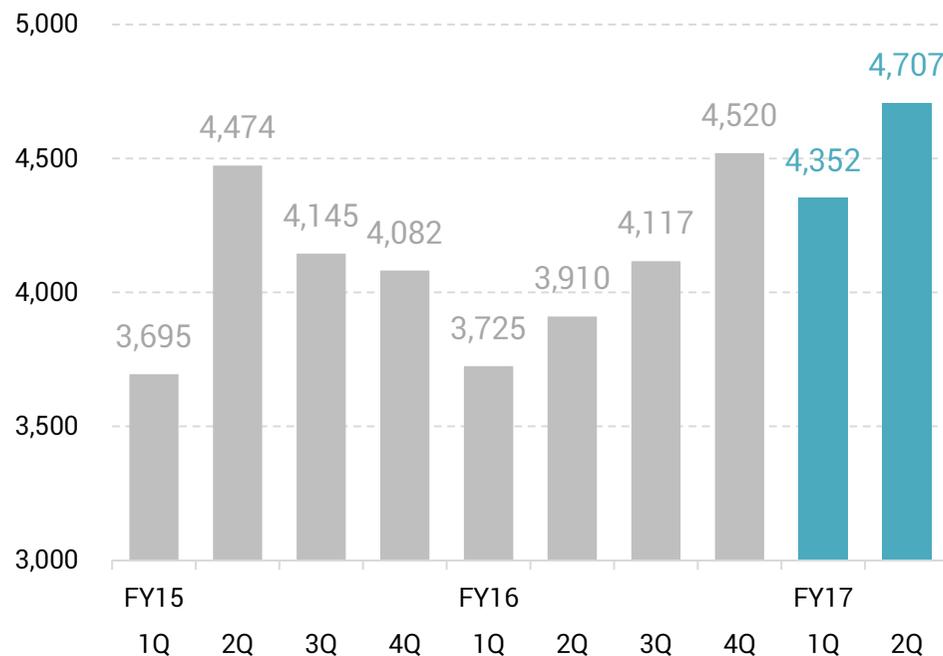
※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

## 01. 売上高（連結）

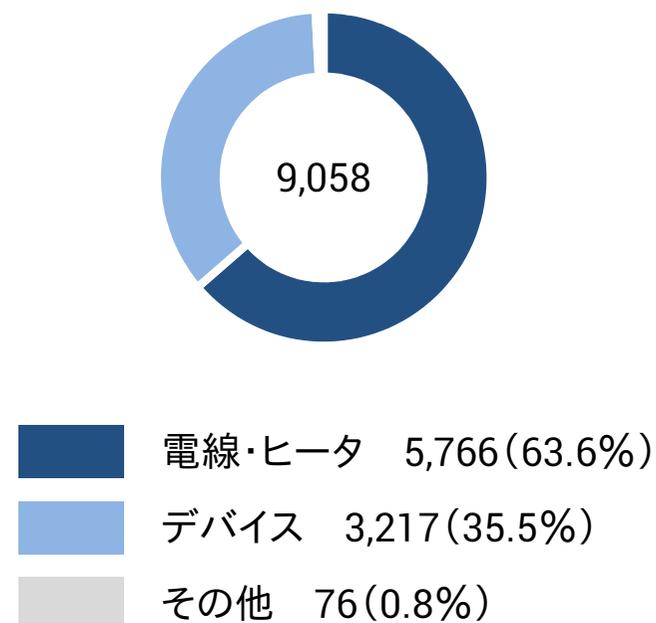
## 概況

- ・ 売上高は9,058百万円となり、前年同期比 +1,423百万円、+18.6%の増収。
- ・ 電線、ヒータ分野は鉄道ケーブル、三層絶縁電線が堅調。メガトルクモータ、スマートフォン用インダクターに使用されるリボン線等が好調となり、前年同期比 +12.0%の増収となった。
- ・ デバイス分野は基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブ、スマートフォンカメラモジュールの手振れ補正用サスペンションワイヤが好調に推移。その結果、前年同期比 +32.9%の増収となった。

売上高（百万円）



FY17 2Q 売上高割合（百万円）

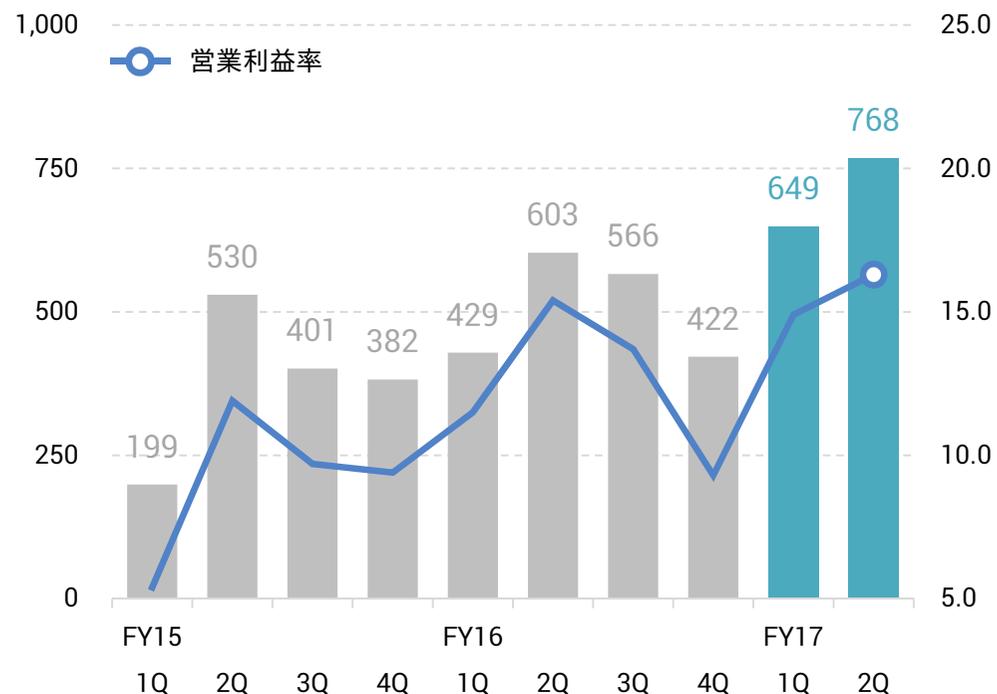


## 02. 営業利益（連結）

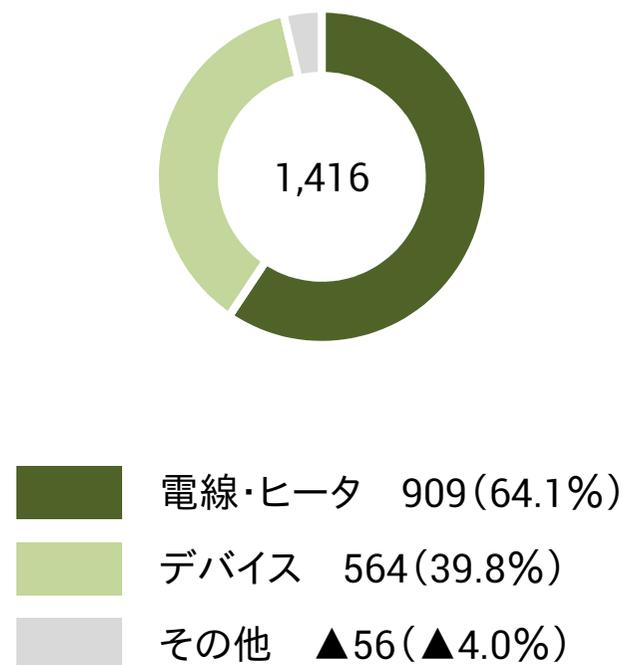
概況

- ・ 連結子会社（インドネシア）での火災に伴い、▲105百万円の影響を受けたものの、売上高での増収に加え、東特本体やその他連結子会社において収益性の高い製品が好調に推移した事、生産性の向上や原価低減が寄与し、原価率が▲0.1%とほぼ同じ水準となった結果、前年同期比 +37.3%の増益となった。

営業利益、利益率（百万円・%）

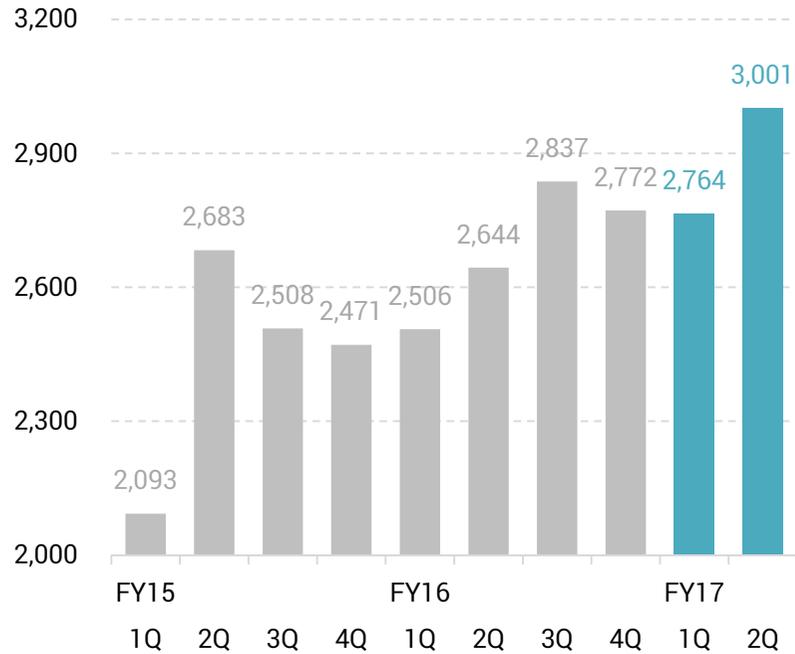


FY17 2Q 営業利益割合（百万円）

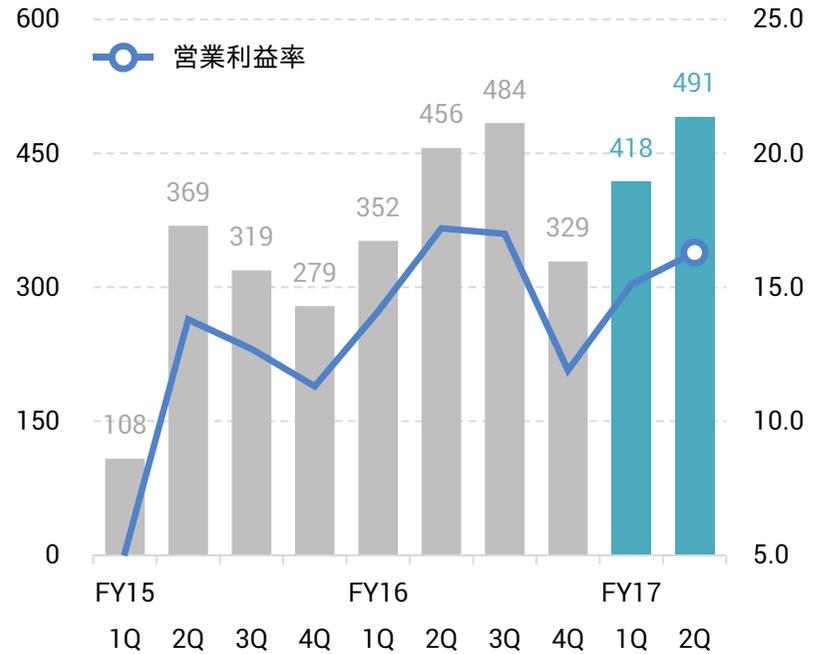


# 03. 分野別概況 (電線・ヒータ分野)

売上高 (百万円)



営業利益・利益率 (百万円・%)



売上高

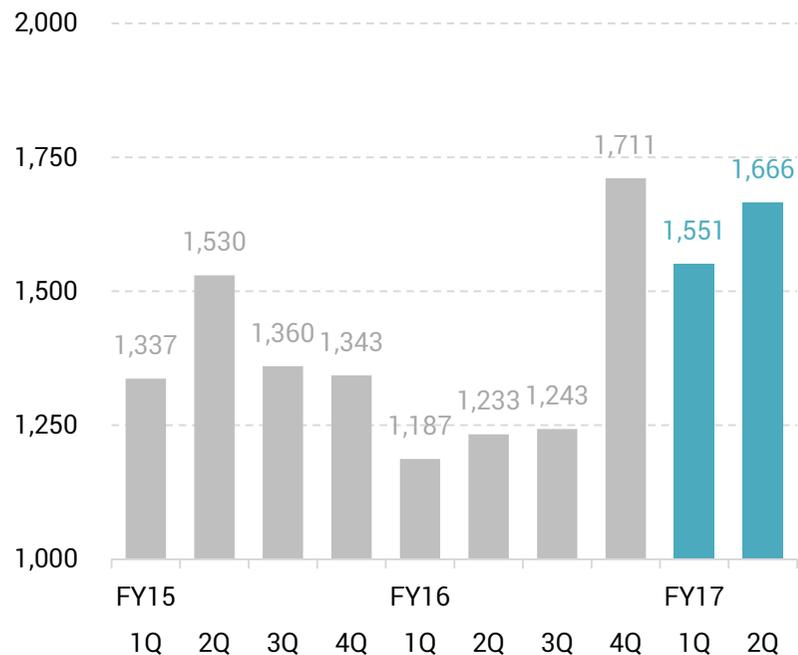
- 電線分野にて鉄道用ケーブルやスマートフォン、PCの電源トランスに使用される三層絶縁電線が堅調な推移となった。

営業利益

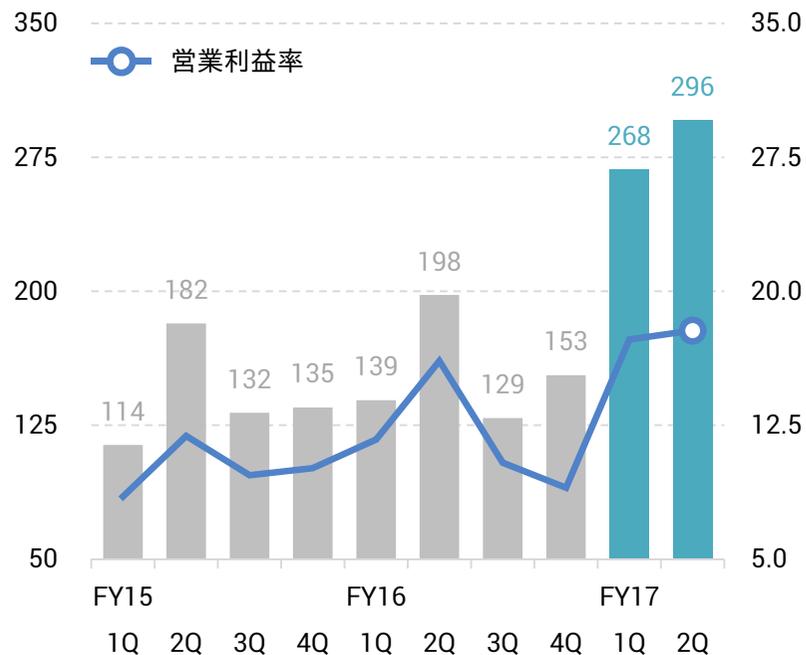
- 銅価格の高騰 (国内建値平均 : FY16 2Q 544円/kg → FY17 2Q 708円/kg) となったものの、売上高での増収がカバーする形となり、増益となった。

# 04. 分野別概況 (デバイス分野)

売上高 (百万円)



営業利益・利益率 (百万円・%)



売上高

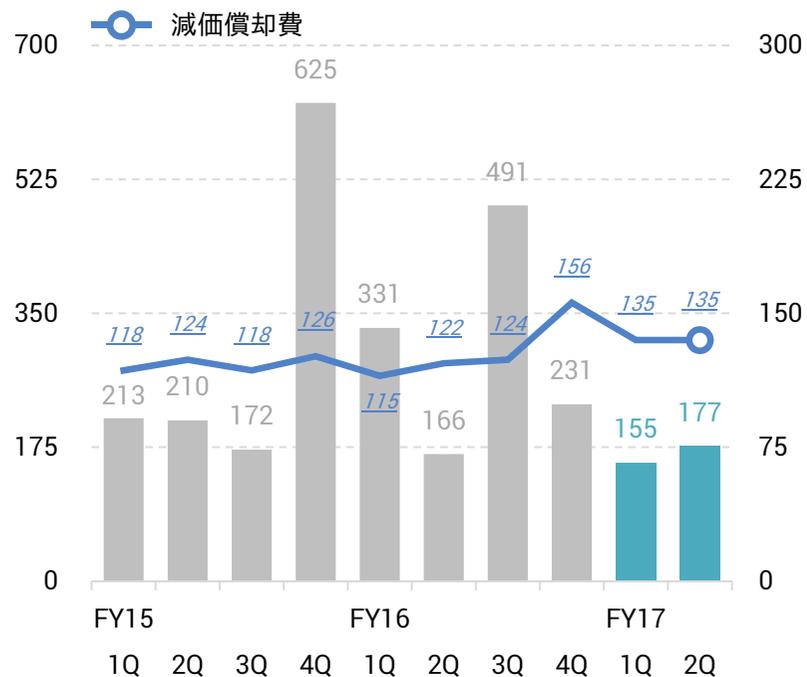
- ・ コンタクトプローブ、サスペンションワイヤの好調に伴い、大幅な増収となった。

営業利益

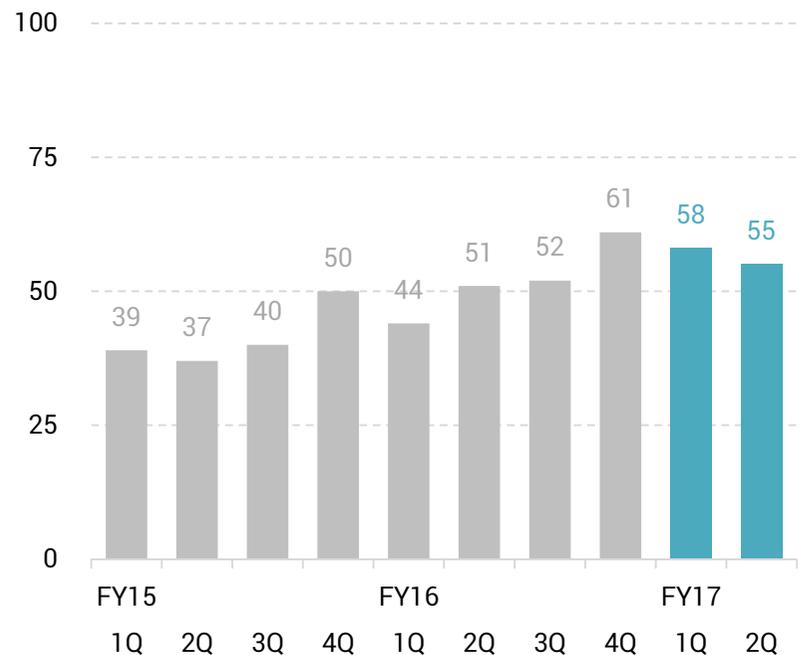
- ・ 売上高での増収やコンタクトプローブ、ウイスカット等の線材加工品の伸長により、連結子会社 (インドネシア) での火災による営業損失を補い増益となった。

# 05. 設備投資・研究開発費（連結）

設備投資・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



設備投資

- ・ 設備投資は、332百万円となった。  
（本体 161百万円、連結子会社 171百万円）

研究開発費

- ・ 連結子会社での研究開発費が増加している。

## 06. 貸借対照表(数値)

(百万円・%)	FY16	FY17 2Q			
	実績	実績	増減	増減率	増減要因
流動資産	11,546	12,343	+797	+6.9	
現預金・預け金(※1)	5,871	5,847	▲24	▲0.4	
その他	5,674	6,496	+821	+14.5	
固定資産	7,232	7,403	+172	+2.4	
有形・無形固定資産	5,468	5,341	▲127	▲2.3	
投資その他の資産	1,763	2,062	+299	+17.0	
資産合計	18,778	19,747	+969	+5.2	
流動負債	5,803	5,818	+14	+0.3	
固定負債	3,350	3,073	▲277	▲8.3	
負債合計	9,154	8,892	▲262	▲2.9	
株主資本	9,375	10,219	+843	+9.0	FY07以来の10,000百万円を突破
その他	248	636	+388	+156.4	
純資産合計	9,624	10,855	+1,231	+12.8	
負債純資産合計	18,778	19,747	+969	+5.2	
自己資本比率	46.5	51.0	+4.4	—	
有利子負債	2,699	2,493	▲205	▲7.6	
Net有利子負債	▲3,172	▲3,353	▲181	+5.7	

※1 親会社の金融子会社である古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート(株)に対する預け金を含む